

一般財団法人 共立国際交流奨学財団

平成 22 年度事業報告書

(平成 22 年 7 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

I. 財団の管理・運営

寄付金の受入

株式会社共立メンテナンスからの寄附金（使途不特定、但し一部は株式会社共立メンテナンス奨学基金奨学金 25 名分）、日本興亜おもいやり倶楽部からの寄附金（使途不特定）、特定非営利活動法人国際人材育成機構からの寄附金（中国福祉医療人材育成基金奨学金 1 名分）及び個人 3 名からの寄附金（現地奨学金 3 名分）を受け入れました。

会議の開催

第 1 回理事会 （平成 22 年 7 月 28 日）

一般財団法人への移行に伴う諸事項の変更（事務局の組織等）が承認されました。一般財団法人初年度（平成 22 年 7 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで）の事業計画及び収支予算が承認されました。

第 1 回評議員会 （平成 22 年 7 月 28 日）

一般財団法人への移行に伴い、新役員の報酬等の額及び新評議員に対する報酬等の支給の基準が承認されました。一般財団法人初年度（平成 22 年 7 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで）の事業計画及び収支予算が承認されました。

第 2 回理事会 （平成 22 年 9 月 9 日）

新法人の選考委員会委員選出について審議の結果、選考委員会委員 5 名（任期：平成 22 年 7 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日）が選出されました。特例財団法人最終年度（平成 22 年 4 月 1 日から平成 22 年 6 月 30 日まで）の事業報告及び収支決算報告が承認されました。

第 2 回評議員会 （平成 22 年 9 月 9 日）

三橋理事の辞任に伴う新理事の選任について審議の結果、佐井浩然氏が選任され承認されました。特例財団法人最終年度（平成 22 年 4 月 1 日から平成 22 年 6 月 30 日まで）の事業報告及び収支決算報告が承認されました。

第3回理事会 (平成22年12月13日)

投資有価証券の運用状況に悪化に伴う運用損の計上が承認されました。Seoul事務所職員の次年度処遇予定(営業目標未達の場合の職員入れ替え)が承認されました。当財団で運営を行う日新アカデミー日本語学校の校舎移転が承認されました。

第3回評議員会 (平成22年12月13日)

役員の報酬等及び評議員に対する報酬等に関する経理処理方法が承認されました。

第18回選考委員会 (平成23年2月28日)

奨学金対象校から推薦のあった平成23年度奨学生候補者366名及び現地(大韓民国・ベトナム)奨学生候補者6名について、審査の結果、一般財団法人共立国際交流奨学財団奨学金15名(現地(大韓民国)採用3名)及び(株)共立メンテナンス奨学基金奨学金25名の合計40名(現地(ベトナム)採用3名)を平成23年度奨学生候補者として選考しました。

第4回理事会 (平成23年3月16日)

平成23年度事業計画及び収支予算、平成23年度奨学生41名が承認されました。

第4回評議員会 (平成23年3月16日)

平成23年度事業計画及び収支予算が承認されました。

Ⅱ. 奨学金支給事業(継続事業1)

留学生奨学金の支給

一般財団法人共立国際交流奨学財団奨学金(月額10万円・期間2年間)を、平成21年度生14名及び平成22年度生15名、合計29名に平成22年7月から平成23年3月まで支給しました。

(株)共立メンテナンス奨学基金奨学金(月額6万円・期間1年間)を、平成22年度生24名に平成22年7月から平成23年3月まで支給しました。

中国福祉医療人材育成基金奨学金(月額10万円・期間1年間)を、平成22年度生1名に平成22年7月から平成23年3月まで支給しました。

現地奨学金を、ベトナム6名、ラオス4名、ミャンマー4名 計14名に支給しました。

現地奨学生選考会の開催

現地奨学生選考会 in 大韓民国 (平成 22 年 9 月 18 日)

日本の教育機関（大学院、大学、専門学校）に進学を希望する応募者 76 名に対し、当財団菊川選考委員、北原選考委員が日本語による面接を行い、3 名が平成 23 年度一般財団法人共立国際交流奨学財団奨学金奨学生候補者に選ばれました。

現地奨学生選考会 in ベトナム (平成 22 年 10 月 24 日)

日本の教育機関（日本語学校）に進学を希望する応募者 27 名に対し、当財団菊川選考委員が日本語による面接を行い、3 名が平成 23 年度(株)共立メンテナンス奨学基金奨学金奨学生候補者に選ばれました。

Ⅲ. 国内・外の留学生に対する生活・学習情報提供事業（継続事業 2）

財団紹介のパンフレット『一般財団法人共立国際交流奨学財団（紹介・情報案内）Vol.16』情報誌『アジア文流 Vol.28』を出版し、文部科学省、関係機関、奨学財団、大学、専門学校、日本語学校及び奨学生などに配布しました。

Ⅳ. 国際交流活動への支援（継続事業 3）

イベントの開催

第 13 回「日本体験コンテスト in 大韓民国」

当財団（東京本部・ソウル事務所）主催、文部科学省、在大韓民国日本国大使館公報文化院、東亜日報、全日本空輸ソウル支店後援、(株)共立メンテナンス協賛の標記コンテストの企画募集及び選考を行い、平成 22 年 9 月 18 日、大韓民国ソウル特別市ロッテホテルを表彰会場として入賞者の表彰式を開催しました。

標記コンテストは、大学院、大学校、大学生を対象として、「日本で実現したい夢」「日本で体験したい事」をテーマに企画を募集しました。応募者 59 名の中から書類選考で選ばれた 16 名の企画優秀者の面接を実施、各々の企画をプレゼンテーションしてもらい審査委員による採点審査の結果 5 名が選ばれました。

入賞者 5 名は、平成 23 年 3 月 31 日までに、それぞれの日本体験企画を実施し、その報告書を提出しました。

第8回「日本語体験コンテスト in 上海」

当財団（東京本部・上海委託事務所）主催、文部科学省、在上海日本国総領事館、全日本空輸上海・杭州支店後援、(株)共立メンテナンス協賛の標記コンテストを平成22年10月17日、中華人民共和国上海市甘泉外国語中学校を会場として開催しました。

日本の高等教育機関に留学を希望する学生や、日本語を学んでいる中国の大学生、高校生を対象に実施し、大学生71名、高校生66名が参加しました。

午前中に行われた予選会では、日本の政治、経済、文化、文学、社会、地理に関する選択式の聴き取り問題30問が出題され、28名が予選を通過し、午後の本選会に出場しました。本選会では3分間の即興スピーチを行い審査委員による採点審査の結果、入賞者8名が選ばれました。

入賞者8名は「共立賞」として賞品旅行5泊6日（平成23年1月24日～29日）に参加し、日本の学校見学、研修観光等のプログラムを通し、日本の教育環境、文化などに触れ日本について理解を深めました。

第3回「日本語体験コンテスト in ホーチミン」

当財団主催、文部科学省、駐日ベトナム大使館、全日本空輸ホーチミン支店後援、(株)共立メンテナンス、株式会社ローソン協賛の標記コンテストを、平成22年10月24日ベトナム社会主義共和国ホーチミン市165 NAM KY KHOI NGHIA GUEST HOUSE を会場として開催しました。

日本の高等教育機関に留学を希望する学生や、日本語を現地のベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、さくら日本語学校、ドンズー日本語学校、サイゴンランゲージスクールで学んでいる学生を対象に実施し、96名の応募がありました。

午前中に行われた予選会では、日本の最新の時事問題を問うものから地球環境、また文化風習等に関する選択式の聴き取り問題30問が出題され、21名が予選を通過し、午後の本選会に出場しました。本選会では、3分間の即興スピーチを行い審査委員による採点審査の結果、入賞者5名が選ばれました。

入賞者5名は「夢・日本体験賞」として賞品旅行5泊7日（平成23年1月23日～29日）に参加し、日本の学校見学、研修観光等のプログラムを通し、日本の教育環境、文化などに触れ日本について理解を深めました。

第11回「日本人学生の『アジア体験』コンテスト to ベトナム・ミャンマー・ラオス」

当財団主催、文部科学省、外務省、駐日ベトナム大使館、産経新聞社後援、(株)共立メンテナンス協賛の標記コンテストの企画募集及び選考を行い、平成22年11月27日、(株)共立メンテナンス会議室を表彰会場として入賞者の表彰式を開催しました。

標記コンテストは、大学院、大学、短大、専門学校生を対象として、「ベトナム・ミャンマー・ラオスで体験したいこと」をテーマに企画を募集しました。応募者 25 名の中から、審査委員による採点審査の結果 5 名が選ばれました。

入賞者 5 名は、平成 23 年 3 月 31 日までに、それぞれのアジア体験企画を実施し、その報告書を提出しました。

研修会の開催

奨学生及び一般学生（留学生、日本人学生）も参加し、相互理解と国際親善・交流を促進するための研修会を実施し、訪問地におけるホームステイ、史跡・歴史的建造物見学、ディスカッション等を通して、日本の文化、歴史、自然についても理解を深めました。

<各研修会報告>

第 53 回 研修会

共 催：一般財団法人共立国際交流奨学財団、(財)北海道国際交流センター
開 催 地：北海道 札幌・函館地域
開催期間：平成 22 年 8 月 15 日～22 日 7 泊 8 日
参 加 者：留学生 28 名
内 容：ファーム体験、ホームステイ

第 54 回 研修会

共 催：一般財団法人共立国際交流奨学財団、美幌町国際交流推進委員会
開 催 地：北海道 美幌町・知床地域
開催期間：平成 22 年 8 月 23 日～8 月 30 日 7 泊 8 日
参 加 者：留学生 15 名
内 容：ホームステイ、学校交流、知床自然体験他

第 55 回 研修会

共 催：一般財団法人共立国際交流奨学財団、オホーツク国際交流センター
開 催 地：北海道 オホーツク地域
開催期間：平成 22 年 9 月 1 日～9 月 7 日 6 泊 7 日
参 加 者：留学生 15 名
内 容：ホームステイ、各地域表敬訪問、親善交流

第 56 回研修会

開 催 地：沖縄県 東村・うるま市
開催期間：平成 22 年 11 月 29 日～12 月 4 日 5 泊 6 日
参 加 者：留学生 44 名
内 容：東村民家宿泊体験、うるまマングローブ植樹、沖縄観光

第 57 回 研修会

共 催：一般財団法人共立国際交流奨学財団、(財)北海道国際交流センター
開 催 地：北海道 函館地域
開催期間：平成 22 年 12 月 2 日～7 日 5 泊 6 日
参 加 者：留学生 26 名
内 容：ホームステイ、学校交流、酪農体験他

第 58 回 研修会

開 催 地：沖縄県 伊江島・名護市
開催期間：平成 23 年 2 月 21 日～2 月 26 日 5 泊 6 日
参 加 者：留学生・日本人学生 36 名
内 容：伊江島民家宿泊体験、屋我地海岸清掃、沖縄観光

VI. 日本語教育施設の設置及び運営

日本語教育施設として日新アカデミー日本語学校の管理・運営を行いました。

V. 留学生寮の設置及び運営

留学生の生活支援を行うため、蕨女子学生会館、武蔵浦和女子学生会館（平成 22 年 12 月閉寮）、つつじヶ丘男子学生会館、相模大野学生会館の国際交流会館 4 棟の管理・運営及び「学習奨励寮」を全国 6 地域（札幌、仙台、首都圏、名古屋、大阪、福岡）で運営を行いました。

また、大学、専門学校及び日本語学校（1 校 3 名以内）に提供する「奨学寮」を東京地区 7 大学、名古屋地区 3 大学、関西地区 9 大学・11 専門学校・3 日本語学校、九州地区 3 専門学校・1 日本語学校に計 103 名分提供しました。